

公民科（公共）学習指導案

1 単元名 財政「理想の日本の国家予算を構想する」

この単元は、「2 内容」の「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」の「(3) 主として経済に関わる事項」に該当する。

2 単元の目標

- (1) 職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。
- (2) 現実社会の諸課題に関わる資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる。
- (3) 幸福、正義、公正などに着目して、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
- (4) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

3 単元の指導計画

(1) 単元の配当時間（全体 16 時間）

- ・現代の経済と市場、市場経済における金融の働き 6 時間
- ・財政の役割と持続可能な社会 6 時間（本時 5 / 6）
- ・働くことの意義と職業選択、労働者の権利と雇用・労働問題 4 時間

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幸福、正義、公正などに着目して、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

(3) 指導と評価の計画 (16 時間)

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的な支援	評価方法
			知	思	態		
第1次 (6)	<p>【学習課題】<単元を貫く問い>「持続可能な日本経済を目指すために、日本はどのようにしていかなければならないだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習課題の理解 	<p>【ねらい】単元を貫く問いを理解し、問いに対する答えの見通しをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の知識を確認し、学習課題に対する見通しをもつとともに、現時点での課題に対する自分の考えをまとめる。 		●	●	<p>(B) 既存の知識を整理し、今後調べることが整理できている。また、現時点での自分の考えをまとめられている。</p> <p>(C) 他者のワークシートを参照させるなどの支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート1の記述を基に評価する。
	<p>【学習課題】<第1次の問い>「公正で自由な経済活動のために政府の役割はどうあるべきか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 市場経済の仕組み 国民所得と経済成長 金融の仕組みと働き 	<p>【ねらい】市場メカニズムの意義と限界、政府の役割が求められることとの関係について考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済指標の計算方法と意味、経済成長とその要因、景気変動と物価について、実際の経済事象と関連させながら理解する。 中央銀行の役割と金融政策について、実際の経済事象と関連させながら理解する。 	●	●	●	<p>(B) 市場経済に関する基本的事項や市場経済で政府が果たす役割を理解できている。</p> <p>(C) 教科書や資料集を再度確認させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート2の記述及び小テストを基に評価する。
第2次 (6)	<p>【学習課題】<第2次の問い>「もし、1,000億円の財源が確保できたとしたら、日本はそのお金をどのような政策に使うべきだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 財政の働きと課題 社会保障の仕組みと課題 	<p>【ねらい】財政の課題を理解しながら、理想の社会とその実現のための政策を構想させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 諸資料を基に、日本財政の特徴を理解するとともに、財政の動きに関心をもつ。 少子高齢化の進む日本の現状、社会保障の財源確保などについて考察し、表現している。 	●	●	●	<p>(B) 日本の財政・社会保障の課題を踏まえ、日本財政を多角的に考察し、協同的に構想できている。</p> <p>(C) 他の生徒の意見をメモさせ、それを踏まえて多角的に思考させるなどの支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート3の記述及び小テストを基に評価する。
	<ul style="list-style-type: none"> 各省庁予算の分析・検討 理想の国家予算 	<ul style="list-style-type: none"> グループで各省庁の予算を調べ、どのような政策を実施しているか理解するとともに、特に推進すべき政策を話し合う。 グループで理想の国家を構想し、それを踏まえて予算の使い道を考える。 	●	○	●	<p>【思】(4)ア参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート4(4-1~3)やグループワークの内容と発表の内容を基に評価する。

第3次 (4)	【学習課題】<第3次の問い>「働きやすい社会をどのようにつくっていけばよいのだろうか」	<ul style="list-style-type: none"> ・労働の意義と職業選択 ・労働者の権利と労働問題 	<p>【ねらい】働く意義を考えながら、誰もが働きやすい社会にするための方策を構想させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意義やキャリア形成について主体的に追究する。 ・現代のさまざまな労働問題について、多面的・多角的に考察する。 	● ●	●	<p>(B)労働問題を自分事として捉え、理想の労働環境を構想できている。</p> <p>(C)他の生徒の意見をメモさせ、それを踏まえて多角的に思考させるなどの支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート5の記述及び小テストを基に評価する。
	【学習課題】<単元を貫く問い>「持続可能な日本経済を目指すために、日本はどうしていかなければならないだろうか」	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を貫く問いに対する自分の考えを、400字程度でレポートにまとめる。 ・学習の振り返りと自己評価を行う。 	○	○	<p>【思】(4)ア参照</p> <p>【主】(4)イ参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート6の記述を基に評価する。 ・ワークシート6の記述を基に評価する。

(4) 評価問題（評価材料）及び評価規準

ア ワークシート（レポート1・2）の評価規準【思考・判断・表現】

・日本の予算や持続可能な日本経済に向けた日本の在り方について、多面的・多角的に考察し、表現している。

判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と評価される例
・多面的・多角的に自分の意見を説明できている。
「十分満足できる」状況（A）と評価される例
・多面的・多角的に考察しながら、根拠を明確にして自分の意見を説明できている。
「努力を要する」状況（C）と評価される生徒の例と教師の指導
・多面的・多角的に自分の意見を説明できていない。 →A評価を得た生徒のレポートを参考にさせ、盛り込むべき視点を指摘する。

イ ワークシートの評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

・自分の追究したい学習課題があり、自分の学習到達度や学習課題を理解している。

判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・学習で追究したいことや自分の学習上の課題が記述できている。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・自分の学習上の課題が記述できているとともに、その改善方法や、今後学習したい内容など今後の学習の見通しを立てることができている。
「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導
・学習課題を追究しようとししない、または、自分の学習上の課題が理解できていない。 →ワークシートを返却する際に、個別にアドバイスを行う。

4 本時の学習

(1) 本時の目標

「理想の国家」を実現させるために、日本の国家予算について多面的・多角的に構想する。

(2) 教材

「公共」(東京書籍)、「フォーラム公共」(とうほう)、教師作成ワークシート、各省庁Webページ

(3) 本時の指導計画 (○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	前時のまとめ	・前回、各省庁で推進すべきと示された政策案(予算案)を再確認する。	・前時に提出したデータをプロジェクターで投影する。
展開	予算編成の構想	・これまでの学習を踏まえて、グループで日本の理想の国家像を考える。 ・理想の国家像を踏まえ、出された政策(予算案)をダイヤモンドランキングを用いて順位付けを行い、理想の予算編成を構想する。	・「今後どのような日本を目指すか」の観点から考察させる。 ・理想の国家像を踏まえ、「優先性」・「有効性」の観点から考察させる。
	発表	・グループごとに議論の結果を発表する。	・発表者以外は、他のグループへの意見や疑問点などをまとめさせる。
まとめ	本時のまとめ 課題の説明	・個人でワークシートに学習のまとめと自己評価を行う。 ・各自で「もし、1,000億円の財源が確保できたとしたら、日本はそのお金をどのような政策に使うべきだろうか」という問いに対する意見文をまとめてくるように伝える。	○ワークシート4-3 【思考・判断・表現】

(4) 本時の評価規準

3(4)ア参照。実際には、本時と次の時間の学習を踏まえて評価を行う。

5 成果と課題

(1) 成果

下の表は、本実践の前後で生徒の思考・判断・表現の評価(多面的・多角的思考)がどのように変化したのかを示したものである。なお、実践前は定期考査における意見文の論述問題の評価結果、実践後はパフォーマンス課題のレポートの評価結果(197名分)であり、同一のルーブリックを用いて評価を行っている(なお、実践前C評価の生徒は考査時に未解答だった者、実践後C評価の生徒はレポートの未提出者である)。

	A	B	C
実践前	36 (18.3%)	154 (78.2%)	7 (3.5%)
実践後	119 (60.4%)	74 (37.6%)	4 (2.0%)

実践を通して、自分の視点だけではなく、グループワークで得た意見や他グループの発表を踏まえて、自分の意見を論述できる生徒が増加した。その結果、B・C評価の生徒が減少し、A評価の生徒が大きく増加した。

また、ワークシートの記述に「ランキングで上位にした政策を実際に行った時のデメリットについても調べ、反対意見をもつ人たちが納得するような理由を考えるべき」「自分の調べた省庁以外の省庁も調べてみたい」といったものが多くみられ、生徒が自身の学習到達度を理解していること、次の学習への展望を描けていることが読み取れた。

これらのことから、本授業実践が生徒の学習改善にもつながったと考える。

(2) 課題

ア 授業方法について

今回の実践では多面的・多角的思考を深化させるためグループワークを柱にしたが、グループワークにより、「他者との違いに気付き、思考が深まった」と答えた生徒が多かった。一方で、「あまり話し合えなかった」「議論がかみ合わなかった」と答えた生徒も一定数存在した。議事進行役の班長にもう少し全体への気配りや意見を述べていない人に話を振るなどの指導をすべきだった。

た。

また、グループでの話し合いの時間が十分にとれず、議論が煮詰まらないままになってしまったグループが散見された。ただし、この点についてはタブレット端末の活用を進めていくことで改善できるようにも感じた。

時間的な制約がある中で、探究活動の時間を確保するためには効率的に授業を進める必要がある。カリキュラム・マネジメントの視点から、他教科と重複する部分はコンパクトにまとめたり、大胆に時間的なメリハリをつけたりすることが時には必要だと感じられた。

イ 授業評価について

授業の振り返りシートやレポートなど、生徒の成果物から評価を行った。ペーパーテストでは測れない生徒の変容を見取ることができたのは大きかった。しかし、その変容の度合いと教員が作成した評価基準とを照合していく作業は、どうしても時間がかかってしまう。また、成長していく生徒との関係で現在の評価基準がいつまでも使えるわけでもない。それ故に、評価計画をしっかりと策定する必要がある。